

## 災害に強い「ひとづくり」「まちづくり」 を支える防災デザイン

特定非営利活動法人防災デザイン研究会

### ◇ 多様なメンバーが参加して動きだした 防災デザイン研究会

阪神・淡路大震災の翌年の1996年、防災研究者とデザイナーが、共同で防災に役立つピクトグラム（図記号）と避難サインシステムの研究を始めました。月に一度の研究会は「防災ピクトグラム研究会（ピクト研）」と名付けられ、回を重ねるごとに出席者も増えていきました。メンバーには、文化人類学者、システムエンジニア、情報通信や環境資材メーカーの社員、行政職員、防災コンサルタントなどが加わり、多面的で実装力のある活動ができる集まりとなり、防災活動や啓発ツールのデザインなど幅広く減災に通じる提案を発信するようになりました。

その提案が社会的に存在感を持つとともに、提案者としての責任をまっとうするためにも、法人格をそなえた団体になるべきという考えが強くなり、2006年に特定非営利活動法人 防災デザイン研究会（Alliance for Disaster Designs、以下ADD）を設立しました。

ADDの目的は、防災研究とデザインを通して、将来にわたり災害に強い「ひとづくり」「まちづくり」に寄与することです。防災情報を可視化、システム化し、わかりやすく伝え人々の判断に資する道具や場をつくり出すことで、防災の意識啓発、教育、訓練の効果を高めるデザインです。

専門的・科学的・客観的な裏づけのある、正確な最新情報を提供するのには防災の専門家ですが、それを多くの人に効果的に伝えるにはデザインがなくてはならない、という強い意識が、メンバーには共有されています。

### ◇ 情報を規格化して広く伝える ：ピクトグラムと色彩コードのデザイン

ADDの前身であるピクト研が最初にピクトグラムを取り上げたのは、防災コミュニケーションの重要性に着目したからです。言葉を介さず直観的に情報を伝えるピクトグラムこそ、人々を的確に誘導し、被害を軽減するために有効だと考えました。

